

## 第30回都市公園コンクール 国土交通大臣賞受賞作品の概要

### 設計部門(小規模)

受賞作品：福岡市動植物園再生事業アジア熱帯の溪谷エリア設計

公 園：南公園 福岡市動植物園

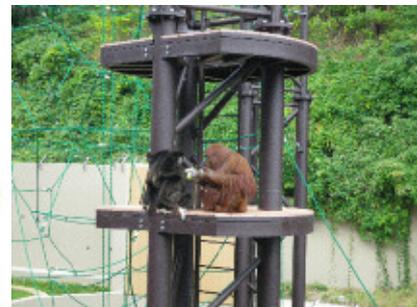
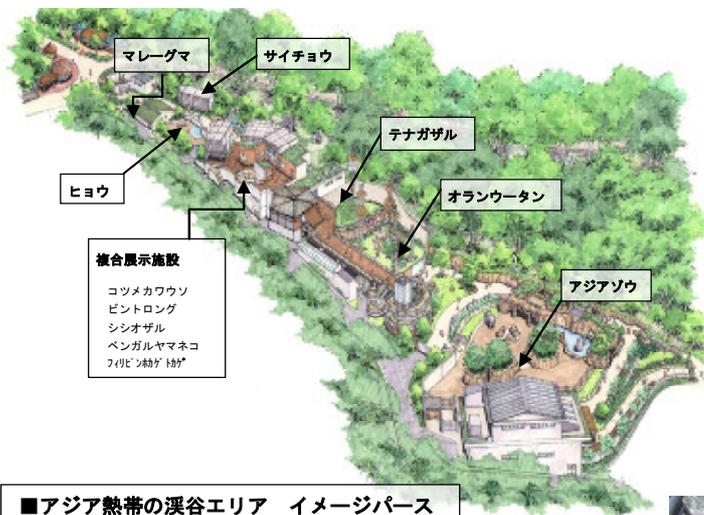
所 在 地：福岡市

受賞団体：株式会社都市計画研究所

福岡市動物園

平成 25 年に開園 60 年を迎えた福岡市動物園の再生計画を先導する事業である「アジア熱帯の溪谷エリア」の基本及び実施設計である。

設計条件となる持続的な動物園利用の活性化、快適な観覧ルートの確保、蓄積された飼育技術の活用などを踏まえ、「熱帯アジアの豊かな動物相への興味と理解を高めるために、複数の動物種を同居させた混合飼育や自然界の立体的な生息環境の再現」を計画方針とし、両側を尾根筋で挟まれた溪谷状の地形と常緑広葉樹の斜面林を活かしつつ、限られたスペースの中で、展示動物種の生態的な特性に基づき、動物固有の能力や行動、生活スタイルを来園者が間近で観察でき、動物と同じ視線の高さで観覧するなど様々な体験の場を確保した施設構成、展示設計などが高く評価された。



オランウータンとテナガザルが同居する高層タワー

### ■アジア熱帯の溪谷エリア イメージパース



谷部に直線状に設置された複合展示施設



生息環境に近づけた熱帯雨林の水辺を再現したコツメカワウソの展示施設

## 第30回都市公園コンクール 国土交通大臣賞受賞作品の概要

### 造園施工部門(大規模)

受賞作品：東山動植物園アジアゾウ舎運動場整備工事

公 園：東山公園

所 在 地：愛知県名古屋市

受賞団体：株式会社本陣

名古屋市緑政土木局東山総合公園

東山動植物園再生プランの一環として行われた新アジアゾウ舎「ゾージアム」の運動場整備工事である。“ゾウのふるさと「スリランカ」を展開！”をコンセプトとして、「スリランカ」の雰囲気を目指し施工された。

現地調査の結果に基づいた模型等を作成して関係者でイメージを共有するとともに、自然に近い状態で安全に飼育することができるようゾウの生態や習性への理解を深めて施工したことなどが高く評価された。

また、工事場所周辺に展示されている動物への影響を抑えるために騒音や振動に細心の注意を払って施工するとともに、仮設パネルに様々な展示を行うなど来園者が楽しめるようなきめ細やかな配慮がなされたことなどが高く評価された。



模型を使った仕上がり確認



スリランカのピンナワラ・ゾウ保護繁殖センターの風景をイメージした大運動場のプール。



小運動場に出たアジアゾウの親子  
(母：アヌラ 子：さくら)。



東山動植物園の歴史的写真をパネルにして展示

## 第30回都市公園コンクール 国土交通大臣賞受賞作品の概要

### 材料・工法・施設部門(大規模施設)

受賞作品：既存芝を活用したスポーツターフのリニューアル

施工場所：町田市立野津田公園 陸上競技場（日本陸連第三種公認）

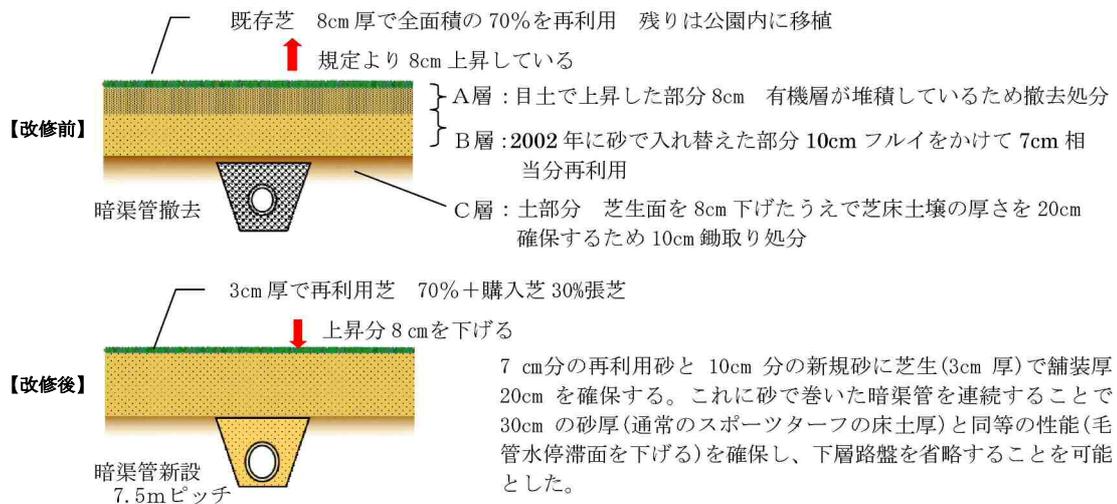
所在地：東京都町田市

受賞団体：日本体育施設株式会社

既存芝を活用した陸上競技場のインフィールドのリニューアルである。

町田市立野津田公園の野津田競技場のインフィールド芝生は、開場から20年以上経過し、芝生面が当初より8cm程度上昇しており、陸上競技場としての規格の不適合や段差によるケガのリスクなどが問題化していた。それに対する芝生面の切り下げ改修工事である。

事前に現地におけるサンプリング調査（芝、土壌）を実施して品質を確認し、残土発生量の低減と芝生の場外処分量をゼロにすることで、環境負荷の低減と大幅なコストダウンを実現した。また、スポーツターフとしての品質についても、再利用材料（芝生、土壌）の品質管理を徹底し、舗装断面を工夫するなどして全面改修と同等の性能を確保することに成功したことが高く評価された。



スリットドレーン施行状況

## 第30回都市公園コンクール 国土交通大臣賞受賞作品の概要

### 企画・独創部門

受賞作品：大手町の森

設置場所：大手町タワー

所在地：東京都千代田区

受賞団体：東京建物株式会社

大成建設株式会社一級建築士事務所

東京の最も密度の高い都市空間に創出した「大手町の森」は、従来の人工的な広場整備とは一線を画し、野生を併せ持つ自然の森をパブリックスペースとして整備したものである。都市の中の森としてアメニティを創出し、ヒートアイランド現象を緩和するなど様々な価値を有し、大手町地区の新しいかたちの公共空間である。

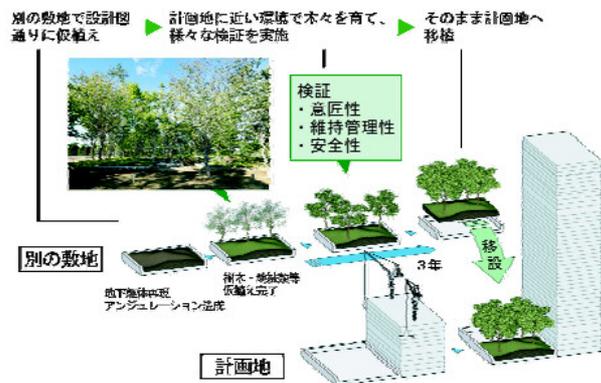
工事の3年前に「大手町の森」の一部を千葉県君津市の圃場に施工し、地形や人工地盤、土壌などの条件を計画地と同等にした上で、森の育成や管理手法を検証し改良を重ねた「プレフォレスト」という取組みを行うとともに、3年間育成した樹木や地被類を最終的に計画地に移植する事で、竣工後素早く充実した自然景観を形成すると共に枯れリスクの軽減を図ったことなどが高く評価された。



従来の人工的な緑地整備とは一線を画す、野生を併せ持つ自然の森



中通りと繋がるよう設けられた、森の緑陰を抜ける歩行者専用の通路



■プレフォレスト概念図